



二十六聖人

2022年 8月〔350 記念号〕

No. 350 (2022年7月31日 発行)

カトリック二俣川教会 TEL 045-391-6296

<http://www.futamatagawa-cc.com/>

主任司祭：ヤコブ 姜 真 求 (カン ジング)

小さな平和から大きな平和が

昨年、教会の庭にあるソテツの葉っぱが次々に枯れてしまい色々調べましたが、病虫害のせいだと判明し、結局、一本の幹を切りました。それでも、状態は良くないように見えてとても気になっていました。そして、今年の枝の主日のために、ソテツの葉を切りましたが、その後、葉っぱの生える時期がバラバラとなり、すべての幹から葉が生えるまでには、何と二か月以上かかりました。それでも、意外と生き生きとしていてほっとしました。これで、来年の枝の主日は心配なく祝えるでしょう。

さて、去年悪くなったソテツの幹を切る作業が終わった後、わたしは庭のベンチのあたりで、高さ30センチメートル、直径20センチメートルぐらいの切られた幹を見つけました。かわいそうに、そこには二つの小さな緑の葉っぱが残されていました。そこでわたしは、教会の脇にあるモミジの木のそばの土を掘り、その小さな葉っぱが付いた幹を植え

ました。そして、夏と秋の間、ほぼ毎日水をやりました。ところが、もう根っこもなく枯れるはずの二つの葉っぱは、冬に入る季節になっても、ずっと緑を保ったままでした。実は、それを植えたときには、「この子はかわいそうにいきなり切られただろう。枯れてしまう時までの間だけでも、安らかにね。」という気持ちでした。でも、冬の間も、その小さな二つの葉っぱは依然として緑で、冬の厳しさを耐え忍んだように、今年の春には葉っぱの端だけが少し枯れた様子でした。わたしは「不思議だな。」と思いながら、とにかく、それから度々水をやったりしました。そんなある日、その小さな二つの葉っぱの真ん中に変化が生じました。驚いたことに、その真ん中に、小さくて柔らかい新しい芽が生え始めたのです。そして、毎日ゆっくりゆっくり



と成長し、今は写真のようになっていきます。嬉しいでしょう。神様の摂理が感じられた瞬間でした。

もう八月となり、色々な観点から見ても「平和」について考えざるを得ない月を迎えました。核兵器によって世界唯一の被害国となった日本と、それによって日本の支配から自由となったアジアの国々。あれから七十七年。でも、人間はその長い年月の間にも、また、今もまだ火薬の臭いに酔っていて、なかなかその酔いから目覚めようとしめないようです。二年以上の新型コロナウイルス感染症との戦いがいつ終わるかもしれない状況なのに、「ロシアによるウクライナへの軍事行動」という表の裏で、自分の利益と野望を叶えようとする強国の指導の立場にある人たちが、人類の平和を脅しています。それは恐らく、今までの歴史の中でそんな犯罪が公然と許されてきたからでしょう。その許しがたい愚かな歴史をこれからも繰り返すことこそ、許されてはいけないと思います。

アシジの聖フランシスコの「平和を求め祈り」は、「主よ、平和を与えてください。」ではなく、「主よ、わたしを



あなたの平和の道具にしてください。」という言葉で始まります。それから、憎しみや争い、分裂や迷い、誤りや絶望、悲しみや闇のあるところに、それぞ

れ、愛とゆるし、一致と信仰、真理と希望、喜びと光をもたらす者としてください、と祈ります。その祈りは、一人一人が自分のいる小さなところで、小さな平和を築く人となれるようにと願う祈りでしょう。その平和が一滴の水となり、それらが集まって平和の川となるのです。その平和の川を成すためには、わたしたちがもっと積極的にイエス様の愛と平和を宣べ、また、それに従って行動すべきです。それこそが、公然と許されてきた罪の歴史と、それを繰り返そうとする人たちを止めさせる力となり、そういう生き方によってわたしたちは「神様の平和の道具」となれるのです。

神様の愛と平和の御業は、イスラエルの小さな村ナザレの純粋なおとめマリアから始まりました。神様はその小さな村の見えないところに、その愛と慈しみと平和の種を蒔かれたのでしょ。マリアの小さくて従順な答えによって、その種は成長し、十字架という大きな平和の木となったのです。いつになるかは分かりませんが、モミジのそばにあるソテツの小さくて新しい芽もどんどん成長し、他のソテツと比べられるほど大きくなることを期待しています。神様の慈しみと愛と平和は、わたしたち小さな一人一人の答えから始まります。そして神様は、そのわたしたちに期待をかけておられます。わたしたちみんながその神様の期待に答え、真の平和の母であるマリアに倣い、また、アシジの聖フランシスコのように平和の道具となることができるよう、お祈りいたします。

主任司祭 ヤコブ 姜 真求

7月教会委員会報告

【司祭】

今日の福音（ルカ 10：1-9）でイエス様は弟子を村や町に派遣されました。そこで病人を癒し神の国が近づいた事を知らせるようにお命じになりました。二俣川教会の地域はとても広い教会ですが、面積に対して信者数は少ないと思います。だからこそ、私たち一人ひとりの宣教が大事です。どのように宣教するかは難しいですが、機会が与えられたら自信を持ち躊躇しないで信じている事を話す勇気が必要だと思います。

知らない場所に派遣された72人の弟子達はイエス様から学んだ事を人々に知らせました。私たちも機会を与えられたら信仰を証する事が必要ではないかと思います。また、1節に「御自分が行くつもり町の村」とありますが、これはイエス様が行きたい所ではなく、将来行くつもりです。ですから私たちが毎日の生活の中で「今日もイエス様の行くところに私を導いて下さい」という祈りは、イエス様が行くところに私たちを導いて下さると思います。

【今月の検討項目】

1. 敬老の日お祝い・納涼祭・バザーについて

◇敬老の日お祝い

- ・対象者 77歳以上 320名（内：米寿9名、喜寿27名）の方へお祝いカードと案内状を送付し、9月10日・11日の主日ミサにて米寿・喜寿を迎えられた方へお祝いを行います。当日ミサ来られない米寿・喜寿を迎えられた方へは9月12日にお祝い品を郵送します。
- ・教会学校からのメッセージ等の協力検討をお願いします。

◇納涼祭・バザーに関しては、2022年度は中止とします。（再開目途：感染症基準2類が緩和された時点）

2. 信徒意見に関して

① ステンドグラス常設について

- ・アンケート（案）に関する改善意見が出されました。出された意見を参考に、原案を修正し、アンケートを実施します。（7月中旬より1ヶ月間）
- 8月常任委員会にてアンケートをまとめ教会委員会に報告致します。

② 教会を訪問された方が教会に入る敷居を低くするための案内板掲示について

- ・制作中ですので制作完了後に掲示し経緯を見ます。

③ 売店部分の整理・整頓の必要について

④ 売店再開時には、ディスプレイ等工夫して欲しい（情報交換掲示板の作成等々）

- ・③④は、共通の問題として検討し、レイアウト2案が提示されました。
- 方向性：①ショーケースを少なくし空間を確保 ②ショーケースの高さを統一する。
- レイアウト変更後に情報交換掲示の可否・場所を検討します。

⑤ 教会誌『二十六聖人』を教会訪問者が手に取りやすい置き方の工夫

- ・教会に入ってすぐの場所のテーブル上に、教会誌『二十六聖人』と教会を紹介する冊子を置く。50周年記念誌も5部程度併せて置き、教会紹介冊子は、広報と事務所に検討する。

⑥ 二俣川教会の守護聖人 日本二十六聖人を知る企画を考えて欲しい。

- ・企画立案のための資料を収集中です。

⑦ 11時ミサにてキリアーレ（賛歌）を信徒は小声で歌う事が周知されていない旨の意見がありましたので、「今週のお知らせ」で周知を図りました。

⑧ 11時ミサ前の聖歌隊練習が10：40までに終わっていないという信徒意見がありましたので、典礼委員長から聖歌隊へ申し入れを行いました。

3. その他

- 桜の木の安全性確認と取り扱いに関して：複数の園芸専門家に桜の診断を依頼しました。全員から倒木の危険性の指摘を受けましたので、通行の安全を守るため出来るだけ早く伐採します。（伐採前に緊急連絡網にて信徒の皆様へ周知します。）
 - *下から若木が育って来ているので、その育成を行うことを前提としてお知らせします。

【その他の検討・確認事項】

<委員会・信徒会>

(典礼委員会)

- ・8月より、週日のミサは火曜日・水曜日・木曜日・金曜日の10時からになります。
 - *新型コロナウイルス感染症の状況により変更の可能性はあります。

(教会学校) 7月17日(日) 10:00~教会学校があります。

(キリスト教講座委員会)

- ・6月26日(日) 新信徒フォローアップ研修の第2回目が行われました。
- ・キリスト教入門講座8月は夏休みとします。
- ・聖書百週間は9月より対面にて実施予定(現状はリモートにて実施)

(財務委員会) 2022年度の間収支決算(1月~6月)を行います。

(広報委員会) 8月号で『二十六聖人』が350号になりますので記念企画を検討中です。

(福祉委員会) 7月中に横浜療育医療センターの代表者による訪問を受ける予定です。

- * 昨年のおクリスマスカードプレゼントのお礼として訪問して下さいます。

(建物管理委員会)

- ・倉庫前避難通路の舗装が完了しました。
- ・花壇などへの水撒き用水道の水漏れの修理が必要です。現状、水道は埋設され使い勝手が悪い為、通常の水道配管に変更して、使い勝手を改善致します。
- ・教会北側の法面の草とりを業者に委託します。・・・高所作業で危険な為。

(ヨゼフ会)

- ・6月19日(日) 草むしり及び第二回定例会を実施(コーヒー光の再開について)。
- ・7月3日(日) 教会委員会へコーヒーサービス光の再開案を提出しました。

(マリア会)

- ・ポリビアデー(ジャム販売)の再開に関しては、ヨゼフ会と開催日等を打ち合わせ計画します。感染症対策はヨゼフ会と情報共有します。

◇コーヒー光・ジャム販売等で駐車スペース利用の場合は、駐車不可の周知が必要です。

◇「コムニオ左近山」へも上記を検討している情報共有が必要です。

(青年会)

- ・6月19日(日) 青年会ミーティング。テーマ：イエス様のみ心についてのわかちあい
- ・7月16日(土) 守口様の結婚式手伝い。
- ・7月17日(日) 青年会ミーティングを予定。テーマ：夏の企画について

(インターファミリーグループ)

- ・6月26日(日) 12:00 教会裏の草むしりと集いに12名が参加しました。
- * 集いテーマ：シノドス3「自分の考えをはっきり声に出す」についてのディスカッション
- ・次回7月31日(日) 12:00~ 2F台所 テーマ：シノドス4「典礼」について

以上

～シノドスへの準備のための 10 の質問より～

第 5 回

⑦「他のキリスト教諸派とともに」

皆さんの教会の周辺で他のキリスト教諸派の兄弟姉妹とどのような関係性をもっていますか。どういった分野に彼らは関心があるのでしょうか。彼らとの対話の実りと妨げは何でしょうか。

（姜神父様のコメント）

エキュメニズム。一つの洗礼によって結ばれた、異なる信仰告白をもつキリスト者間の対話は、シノドスの旅において特別な位置を占めています。わたしたちの教会共同体は、他のキリスト教伝統や諸派のメンバーとどのような関係をもっているのでしょうか。何を共有し、どのようにともに旅をしているのでしょうか。ともに歩むことで、どのような実りを得たのでしょうか。困難は何でしょうか。どのようにすれば、互いに歩みを進める次の段階に進めるのでしょうか。（＝質問原文）私が神学校で聞いたことがあります。例えばあなたが外国に行ったときに、カトリック教会のミサに参加しようとしても、そこにカトリック教会がない場合はどうしますか？主日のミサにどう与るのか？もしそこに東方教会（正教会）があったらそこでミサに与り、ご聖体をもいただけます。もし東方教会もない場合…そこに聖公会があれば、そこでミサに与る事が出来ます。聖公会もなく、ただプロテスタント教会があれば礼拝に与ることはできます。そこがエキュメニズムの難しいところです。なぜなら東方教会や聖公会のミサには秘跡性があり、それが大事にされているので対話ができます。しかし、プロテスタント教会はその礼拝自体が秘跡ではなくことばの礼拝。プロテスタントの信者さんとの対話において、秘跡に関して話せば激論になるでしょう。以前はキリスト教の「一致」という観点でのエキュメニズムでしたが、今は分かれた兄弟たちが互いに理解し協力し合うという考えでのエキュメニズムといえます。教会一致ということよりも、社会的な問題に対して意見をひとつにすることや、意見を交換すること、お互いの教会との定期的な交流など、イベント的なことはできるでしょう。しかし「一致」はまだまだ難しいことだと思います。上記に述べられた質問には非現実的な部分もあります。イベントとしては行われてきたことですが、持続可能な交流についてはもっと真剣に取り組まなければならないと思います。「世界祈祷日」などでプロテスタント教会との交流が持てますが、一過性のイベントにせず互いの理解を深める内的な努力が必要だと思います。



初聖体のお恵みをいただきました！

日頃より教会学校の活動にお祈りとお理解をいただき、感謝いたします。6月19日、キリストの聖体の祝日に3人の子どもが初聖体のお恵みをいただきました。そのうちのひとりには洗礼のお恵みをいただいたのちの初聖体となり、とても喜ばしい時間となりました。

ご聖体をいただくためのお勉強は、感染症予防の配慮により3月から開始し、毎日のお祈りと、毎週、神様やイエス様の教えを学びました。最初は自信なさげだった「主の祈り」「アヴェ・マリアの祈り」も、初聖体をいただく頃にはしっかりと十字をきって唱えられるようになりました。

年々、外国籍のご家庭が増えてきており、今回も2家族がベトナム人のご家庭でした。勉強会の開始にあたり、日程表など正確に情報をお伝えしなければならない事柄などは、ナン神学生のご協力をいただきベトナム語に訳していただいております。そのおかげで、3家族ともほとんどお休みなく勉強会に参加できました。

「ご聖体をいただきたい！」という素直な気持ちを持ってお勉強していた時期を経て、ご聖体を初めていただいたこれからは、子どもの信仰を育てる上でとても大切だと思います。ミサでご聖体をいただいて強められた私たちが、どう生かされるのかを子どもたちに伝えていかなければなりません。ご家庭ではお忙しい中、共にお祈りする時間を持つ、お子さまとごミサに与る、教会学校に連れてきてくださるなどののはたらきかけが、教会全体では教会に来た子どもたちにむけて、“神さまのおうちによく来たね”という温かいまなざし、ことばかけが子どもたちの励ましとなり、喜びとなるのではないのでしょうか。

今後共、教会の子どもたちの信仰を教会全体で育ていけるように、みなさまのお祈りをどうぞよろしくお願いいたします。

教会学校リーダー モニカ Y. J.



マリア会通信 No. 119

6月末の異常な暑さには驚かされましたが、皆さまは熱中症にもコロナにも負けずに、お元気にお過ごしでしょうか。今号では、先号に引き続いて、ステラマリスの本来の意味の、海の星の聖母について少し触れたいと思います。

“海の星の聖母(うみのほしのせいぼ ラテン語:Stella Maris)あるいはステラ・マリスの聖母は、イエス・キリストの母マリアの古来の呼び名である。” (ウィキペディアより)

この呼び名には、聖母マリアがキリスト教信者の希望の印、導きの星としての役割を強調してきたことがあり、特に、旧約聖書のイスラエルを比喩的に海といい、それは、海岸線の向こうの人々という意味であったとのこと。この呼び名のもと、聖母マリアは海を旅する人や海で生計を立てる人たちの案内人、そして、保護者として、神と人間を仲裁するものと信じられているそうです。でも、マリア様への私たちの敬愛の気持ちは、海の仕事をされている方々にも負けないものではないかと勝手に思っています。二俣川教会の成人女性たちの集まりの名前を、先輩方が何の迷いもなく「マリア会」と名付けたことから、それはわかっていたのではないのでしょうか。

典礼暦では、8月15日に「聖母の被昇天」という祭日を迎えます。ウィズコロナの考え方で、この2年半止められていた時を、マリア会を始めとする二俣川教会の各活動会は動かそうとしています。主のお導きとマリア様のお助けをいただいて、この祭日を賛美しつつ、前を向いて歩んで参りましょう。

マリア会 F. N.

【編集後記】

初めての編集後記です。お気づきの通り「二十六聖人」がリニューアルの道を歩き始めました。もっと皆様が読みやすい、読みたくなる誌面を目指して頑張って参ります。(Y. O. 記)